

令和2年度 第1回 蕨市公民館運営審議会 会議録

開催日時	令和2年6月30日(火) 午後2時00分～3時48分
会場	中央公民館 1階 集会室
出席者 (順不同)	大鷲輝国 会長(議長)、松原由紀恵 副会長(副議長)、笹恵子 委員、小西政勝 委員、山田由紀子 委員、中村和弘 委員、宮寄直子 委員、村川奈津子 委員、中捨文子 委員、村田郷子 委員、高野眞由美 委員、土肥仁美 委員、朝倉伸行 委員、田本正克 委員、小澤俊子 委員 15名
	松本隆男 教育長、渡部幸代 教育部長、加納克彦(中央)・岡本啓太郎(東)・荒川恵子(西)・野田智之(南)・桑島勝彦(北町)・小川有紀子(下蕨)・黒澤美和子(旭町) 各館長、松永祐希 課長・竹田有里 係長(生涯学習スポーツ課)、瀬口正浩 係長・飯田アズ美 主査(中央、書記) 13名
	<合計> 28名
欠席者 (順不同)	なし
主な添付資料	資料1、蕨市公民館運営審議会 委員名簿(令和2年6月15日現在) 資料2、令和元年度 第3回 公民館運営審議会 会議録(案) 資料3、令和2年度 公民館等 職員人事異動 資料4、令和元(平成31)年度 公民館 事業一覧 資料5、令和元(平成31)年度 公民館 利用状況調査 資料6、令和2年度 公民館 事業計画 資料7、コロナ禍 公民館 休館・再開、利用等 概要(経過) 資料8、直近3年間 施設稼働率ほか 別 添: 社会教育法・市関連条例ほか関連法令(抜粋) パンフレット「蕨市の公民館」(H28年度作成版)
<b>会 議 内 容 (要 旨)</b>	
<p>&lt;公民館運営審議会&gt; 午後2時00分 開会</p> <p>1、開会 ※実施傍聴なし(コロナ禍で不特定の密集防止のため)</p> <p>2、委嘱状交付 (コロナ禍で対面防止のため従来の手交を省き、委嘱状の机上配布と呼名を以って代える)</p> <p>3、松本隆男教育長あいさつ</p> <p>4、出席者自己紹介</p> <p>5、正副会長の選出 会長に大鷲委員、副会長に松原委員を選出。正副会長あいさつ。</p> <p>6、議 事</p> <p>①前回会議録の承認 資料2『令和元年度 第3回 公民館運営審議会 会議録』(案)を承認</p> <p>②報告事項</p> <p>(1) 令和2年度 公民館等職員人事異動について 資料3『令和2年度 公民館等職員人事異動』に基づき事務局から、説明</p> <p>(2) 令和元(平成31)年度 公民館 事業報告、公民館 利用状況報告について 資料4『令和元(平成31)年度 事業報告』、資料5、『令和元(平成31)年度 利</p>	

用状況報告』に基づき各館長から説明

(3) 令和2年度 公民館 事業計画について

資料5『令和2年度 公民館 事業計画』に基づき各館長から説明

(4) その他

資料7「コロナ禍 公民館 休館・再開、利用等 概要」に基づき事務局から説明

委員：コロナ禍での外出自粛期間が長かったため、高齢者の中には解除後も体力や気力の低下などで外へ出られなくなってきている人もいる。クラブ協議会などでは、利用や今後の事業などについて、館との話し合いの場などは、もう設けられたのか？

委員：自分の館では、まだそうした場は出来てない。

委員：中央公民館で自分が携わっている毎月10日の「パソコン室の開放」は、4・5月は中止、6月から、スタッフにはフェイスガードの準備などをして再開したが、けっこうな人数の来場があった。また、これとは別で参加している中国語のサークルは、まだ再開しておらず、これから再開するところ。人数が多くなる会合や催しなどは、密集や対面防止など、開催が難しい。

委員：中央コミュニティ委員会などでは毎週水曜日に、地域の小学生下校時の安全見守り活動を行っているなどしていたが、今年度は、こうしたいろいろな事業・予定の計画が立てづらい。

委員：自身もコミュニティ委員会事業での関わりも多いが、今のところは、先々の動きや予定は難しい印象。学校でも「新しい生活様式」のもと、体温管理やアクリルボード活用での学習や給食、教員のフェイスガード使用など、三密防止や感染拡大防止などの手立てを講じている。また、国でも熱中症対策も視野に入れた計画を模索しており、人との距離を確保できれば、状況によってはマスクを外してもよいといった動きも出始めている。全体で多数になる集まりは、まだまだ制限がかかっている状況であり、そういった観点からも地域の公民館活動で多くの人が集まるのは難しいだろう。

委員：自分が公民館活動に携わり出してから30年ほどが経つなか、これまでは参加者数・会員数や事業を増加させるような姿勢でやってきた印象だが、現下ではそうもいかなくなっている。知り合いの高齢者が活動に出てこなくなっており、今後の団体活動の継続・存続も気になるところ。市民どうしが触れ合い、生涯学習を進めるといった姿勢が、コロナ禍では難しくなっていると感じる。

委員：各館の事業計画にある「地区生涯学習フェスティバル」は、コロナ禍でも予定通り開催するのか？

事務局：館によって利用団体に意向調査中のところや時期をずらしての開催を模索しているところなどがある。ここ数か月間は、関連する団体の活動がほぼできていないなか、少なくとも9月始め開催予定では、団体の準備が間に合わず、ほどなく、それぞれの館（地区）で、なんらかの方向性を、関連する団体・組織などへお示ししないとならない時期と考えている。

委員：コロナ禍で、この1年は先行きが不透明で、まさに「状況を見ながら今後の動きを探っていく」ことになると思う。例えば会議はオンライン化

を検討するなど、これまでとは違った館利用や運営の検討も必要な反面、人どうしのつながりや直接に会って話をするとといったことの大切さを、しみじみと感じている。

委員：自分の団体も会議は、集まらずに書面で行った。先の見通しが立っていないなか、何とも言えない状況である。

委員：子どもたちと地域の大人とのつながりがコロナ禍で減っていることに危惧しているが、やはり、今後の状況を見極めながら教育活動を広げていかななくてはならないと思う。

委員：自分の参加する団体ではフリーソフトを使っのオンライン会議を行って見たが、なかなか便利だった。参加の条件や機器環境の検討も必要だが、オンラインでの講座開催を、各館でもトライアルでやってみてほしい。また「COCOA」（ココア。厚生労働省が開発の新型コロナウイルス拡大防止のための、感染者と接触した可能性について通知を受け取ることができるなどのスマートフォンのアプリ）を、ぜひ活用すべきである。

委員：この会議（公民館運営審議会）も、オンラインでの開催の検討をしてみては？ 蕨市のそうした点への取り組みはどのようになっているのだろうか？

委員：学校でのオンライン授業などの取り組みは？

委員：蕨市では、まだ行っていない。学習の支援という点で、それぞれの学校でビデオ教材は配信している。また、次回の校長会はオンライン会議で行う準備をしている。

委員：孫の通う他市の学校でオンライン授業が行われていたが、その家庭にはパソコンなどの機器が3人で1台しかないなかで、使い方（子どもへの使わせ方）が大変だった。家庭では、特に、子どもには「1人1台」の環境ではないことが多い。大人がオンライン会議で使う際にも、周囲で子どもが騒ぐことや室内が映り込んでしまうといったプライバシー面での心配など、今すぐ対応できる環境の人と、そうでない人とがある。また、体操のサークルでの話だが、コロナ禍で外出を避けていたり活動を休んでいたりしたなかで、いまだ感染が不安で外出を控えていたり、筋力が落ちてしまったりといったことが起きている。活動の休み中でも体を動かさなければならないとは分かっているも、なかなか自分1人だけでは長続きせず、やはり集団でコミュニケーションをとりながらの活動の大切さを感じた。特に独り暮らしの高齢者などは、人との会話がなると衰えていってしまう面もある。毎冬のインフルエンザの流行への対応と同じように、今回のコロナ禍に限らず感染症とは共存していかないとならない。

委員：人と直に接することは大事。オンラインは便利な反面、自身が映り込む画面に気恥ずかしい感じがするが、そうした方法にも慣れていかないとならないと思っている。

委員：オンラインやリモートでの取り組みはあっても、やはり、家で自分1人で視聴する動画では、学習もそうは長続きしない。みんなと一緒にだから続くのだと実感した。コロナ禍の制限下で数か月ぶりの活動再開となっているが、今後もこれが続けていけるとよい（コロナ禍で再び利用制限

がかかり、活動できなくなると困る)。

委員：今までの「普通」だったことが、今はそうではなくなった喪失感を感じる。ここ3か月ほど、活動ができないなか、これまでは人とのつながりで元気をもらっていたのだと実感した。7月からは、公民館利用も、また一段の緩和となるが、感染予防策に、どこまで気をつければよいのか、道具の供用・消毒の程度はどうなのかなど、不安だが、まずは少しずつ、一人一人の取り組みの積み重ねから、これまでのようなつながりを持っていければよいと思っている。

委員：今後1～2年は、今のような感染予防をしながらという状態が続くと思ってもらったほうがよい。正しい手洗いや手指消毒・マスク着用の方法など、ほんのちょっとした、ひとつひとつに、気を付けていくことで、かなりの予防ができる。高齢者は外出してはいけないのではなく、例えば早朝や夕方などの人の少ない時間帯に散歩をするなどは、まったく問題ない。そうしないと、体がますます動かなくなるといった悪循環となってしまう。ここにいる人たちから、ぜひ、周囲にそうしたことを広めてほしい。

委員：高齢の母が外出できずに家の中で「煮詰まって」いる。公民館の利用再開には、外出や利用を躊躇する思いもある。先ほど発言のあった地区生涯学習フェスティバルの実施の有無や方向性は、なるべく早く決めてほしいと思う反面、先が見通せないなかで（先々の催しの中止を今の時点で単純に決めてしまっただけのものかどうかなど）多方面での調整も難しいと感じた。

委員：普通の生活が幸せだったのだと感じる。これからは新型コロナと「うまく付き合いながら」生活していきたい。

委員：先ほど各館の事業計画のご説明をいただいたが、これらは4月時点までに作成されたものであり、今般のコロナウイルス禍で、実施状況が大幅に変化してきている現状においては、むしろこの事業計画をどう見直していくかが重要であり、公民館としては、その見直しスケジュールや手順を早く提示すべきと思う。各利用者・利用団体は、館とも対話しながら、その見直しスケジュールや手順に沿って活動計画の見直しを行い、その結果、館としての新たな事業計画の策定が行われることになるではと思う。（民間企業では、事業を取り巻く変化に対し、迅速に事業計画のローリングを行う仕組みがある。市の事業計画などについても、同様な動きが肝要ではないか。）ただ、先々の状況が未だはっきりしていない現時点では、館としても見直しのスケジュールや手順などについて指示しにくい面はあるとは思うが…。

委員：コロナ禍は、はじめは、せいぜい1～2か月で収まり、こんなに大ごとになるとは思ってもみなかった。利用団体やクラブもほぼ動いていない。この間、高齢者会員は家の外へも出られなかったが、自分の団体ではSNSで個人での練習用にダンスの動きなどを配信していたが、家で1人では継続に限度もあった。公民館活動が、いかに当たり前で、いかに大事だったのかという声を聞いている。この先、元に戻るのにどれだけ時間がかかるのか心配している。

委員：下蔵公民館や市民会館、文化ホールくるるなどでのコンサートや種々の

催しなどの多くが、コロナ禍で中止となっている。そうしたなか、演者への謝礼について少し気になっている。中止自体はやむを得ないが、演者は何か月前からいろいろな準備をし、相応にその費用もかかっているなか『「中止」なので「謝礼もゼロ』で済んでしまっていることがある状況である。もちろん、演者は、謝礼だけを望んでいるわけではなく、聴いたり見たりして楽しんでもらうことに喜びがあるのだが、そうとはいえ、果たして「謝礼ゼロ」でいいものなのか。

委員：地域で、生き生き 100 歳体操の運営に携わっており、9月から再開予定だが、多人数が参加するもののため、どのように運営したらよいかを考えていかないとならない。また、市内の町会でも3～6月は会合や催しなどをほとんど中止にしている。町会会館は狭隘なものが多く、40人超の会合ができるような場所は、地域には公民館くらいしかないため、そうした利用が、今後、公民館に集中するのではないかと思っている。

午後3時48分 松原副会長 閉会あいさつ、閉会

(参考) 蕨市立公民館設置及び管理等に関する条例施行規則 (抜粋)

(会議録)

第10条 会議録には、次の事項を記載する。

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| (1) 会議の名称     | (5) 説明のため出席した者の氏名 |
| (2) 会議の日時及び場所 | (6) 会議に提出された議案    |
| (3) 議長及び書記の氏名 | (7) 議事の経過         |
| (4) 出席委員の氏名   | (8) 開会及び閉会の時刻     |